



城西国際大学
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY



JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY

GRADUATE SCHOOL 2027

城西国際大学 大学院





学長 水田 博久
MIZUTA Hirohisa

城西国際大学は、1992年の開学以来、建学の精神「学問による人間形成」と、教育理念「国際社会で生きる人間としての人格形成」のもと、時代の要請に応える人材の育成に取り組んでまいりました。1996年に開設した大学院は、現在、東京・紀尾井町キャンパスと千葉・東金キャンパスに7研究科10専攻を擁し、人文科学・社会科学・自然科学の各分野において、専門性の高い教育・研究環境を整えています。首都圏に都心型と郊外型、2つの特色あるキャンパスを有する国際総合大学として、世界に開かれた学びを推進するとともに、地域社会、自治体、産業界との連携を通じて、教育と研究の成果を社会へ還元してきました。

今日、AIをはじめとする技術革新により、私たちはかつてない速度で情報にアクセスできる時代を生きています。だからこそ重要なのは、情報を受け取ることではなく、その真偽を見極め、本質を捉え、自らの視点で課題を考え抜く力です。大学院での学びには、専門知を深めるだけでなく、複雑な課題を多角的に分析し、新たな価値として社会に実装していく姿勢が求められます。過去を学び、現在を見つめ、未来を構想する。その営みを通して、皆さんが高い志と探究心を備え、社会に貢献する知の担い手として成長されることを期待しています。

建学の精神

学問による人間形成

教育理念

国際社会で生きる人間としての人格形成

城西国際大学 大学院の特色

千葉東金、東京紀尾井町キャンパスで
教育・研究活動を展開

学部在籍中に大学院の授業を学び、
より短い期間で修了可能

大学院生専用の研究室を設置

インターンシップを実施
海外での長期研修も可能

在学中に教育活動の一端に
触れることができる
ティーチング・アシスタント制度の充実

1年の在学で修士課程を
修了できる制度

社会人向けのサポートが充実
全研究科全専攻で社会人入学選抜を実施。
東京紀尾井町キャンパスでも授業を開講しており、
社会人の方でも通学しやすい環境を整えています。

少数精鋭教育による
丁寧な指導

キャリア形成・就職サポート
学内にある「キャリア形成・就職センター」
のスタッフが進路についてサポートします。

目次

人文科学研究科

Graduate School of Humanities

- 国際文化専攻[修士課程] P3
- 女性学専攻[修士課程] P5
- グローバルコミュニケーション専攻[修士課程] P7
- 比較文化専攻[博士後期課程] P9

経営情報学研究科

Graduate School of Management and Information Sciences

- 起業マネジメント専攻[修士課程] P11
- 起業マネジメント専攻[博士後期課程] P13

福祉総合学研究科

Graduate School of Social Work Studies

- 福祉社会専攻[修士課程] P15

ビジネスデザイン研究科

Graduate School of Business Design

- ビジネスデザイン専攻[修士課程] P17

薬学研究科

Graduate School of Pharmaceutical Sciences

- 医療薬学専攻[博士課程〈4年制〉] P19

国際アドミニストレーション研究科

Graduate School of International Administration

- 国際アドミニストレーション専攻[修士課程] P21

健康科学研究科

Graduate School of Health Sciences

- 健康科学専攻[修士課程] P25

国際文化専攻



Webサイト

国際社会に通用する研究者及び高度専門職業人を養成します

国際文化専攻は、「日本文化研究」と「比較文化研究」を二つの柱としています。それぞれの専門科目を「日本文化分野」および「比較文化分野」の科目群に配置し、文学、歴史、言語、社会などに関する多角的な授業を開講しています。

日本文化分野では、日本文化を歴史・文学・言語といった側面から時代別に研究します。一方、比較文化分野では、日本とアメリカ、中国、韓国、東南アジアなどの諸文化を比較・相対化することで、新たな側面や文化的な独自性を探究します。

修士課程の集大成となる修士論文では、マンガ、文学、映画、ゲームといったコンテンツ文化から、日中の歴史・社会、日本語学まで、一人ひとりの知的好奇心に合わせた幅広いテーマでの研究が可能です。

在学生の声

Student Voices



国際文化専攻
土橋 信之介さん

学部時代に地域活性化について学んだ後、広告代理店系企業で千葉の地酒や県産品を扱う店舗運営に携わる中で、地域にはまだ十分に知られていない魅力的な資源が数多く存在することを実感しました。その経験から、酒蔵を活用した地域活性化に関心を持ち、より専門的に研究するため大学院へ進学しました。現在は、酒蔵ツーリズムや地域イベントなどの事例を通して、酒蔵が地域振興や観光振興に果たす役割について研究しています。先生方の丁寧な指導のもとで研究を深めながら、将来は地域資源の価値を発掘・発信し、地域の活性化に貢献できる人材を目指しています。



国際文化専攻
王 大年さん

大学卒業後に社会人として働く中で、日本文化や日本文学への関心がさらに深まり、より専門的に学びたいと考え大学院へ進学しました。本学大学院は国際色豊かな環境に加え、優れた先生方のもとで多様な文化に触れながら学べる点に魅力を感じ、進学を決めました。現在は、太宰治『惜別』における他者構築について研究しています。授業では、先生方の丁寧で分かりやすい指導が特に印象に残っており、深い知識に基づく助言から多くの学びを得ています。また、文学研究には文化理解も重要だと考え、研究とともに地域の文化や景色にも積極的に触れています。今後も文学と文化の両面から学びを深めていきたいです。

教員紹介 / 研究領域

Professors

※★印は研究指導教員です

研究科長 / 教授 ★ 渡邊 拓 WATANABE, Taku	日本近代文学、 特に大正期の小説について	教授 ★ 塩出 浩和 SHIODE, Hirokazu	中国近現代史、地域研究(マカオ)、 移民研究
教授 ★ 倉林 真砂斗 KURABAYASHI, Masato	東アジア、比較考古学、 文化資源	教授 ★ 中川 正臣 NAKAGAWA, Masaomi	言語教育学、韓国語教育学 (カリキュラムデザイン、評価デザイン、 教室と社会を結ぶ学習デザインなど)
教授 ★ 岡田 美也子 OKADA, Miyako	日本文学、 特に中世文学とその周辺	准教授 ★ 大森 夕夏 OMORI, Yuka	アメリカ文学、 特にユダヤ系文学
教授 ★ 吉田 朋彦 YOSHIDA, Tomohiko	言語学、日本語学、 意味論・語用論とその関連領域	准教授 三島 武之介 MISHIMA, Takesosuke	国際政治学、政治学、 アメリカ史
教授 ★ 井上 敏昭 INOUE, Toshiaki	文化人類学、北方先住民研究 (食文化、伝統文化研究、贈与論、 地域コミュニティ論)	准教授 亀井 みどり KAMEI, Midori	韓国語学(語彙論)
教授 ★ 芳賀 浩一 HAGA, Koichi	比較文学、現代日本文学、 環境批評理論	准教授 長谷川 貴志 HASEGAWA, Takashi	日本近現代外交史、戦後史、 戦後日中関係史、アーカイブズ学

カリキュラム

Curriculum

国際文化基礎論(研究/調査法)
国際文化基礎論(発表/論文作成)
日本文化研究(文学)A、B
日本文化研究(歴史)A、B
日本文化研究(言語)A、B
比較文化研究(比較文学)A、B
比較文化研究(比較考古学)A、B
比較文化研究(比較民族文化論)A、B
日本文化特別講義(社会と文化)
比較文化特別講義(日中比較)

日本文化演習Ⅰ～Ⅳ
比較文化演習Ⅰ～Ⅳ



修了までの研究プロセス

Degree Completion Timeline

学年	期間	発表会計画	指導内容・到達目標等
1 年次	入学時	研究計画書提出	入学後半年以内に、副指導教員2名以上を決定
	後半	研究中間発表	研究テーマの独創性、問題設定の妥当性 先行研究の把握 他分野の研究との関連性 研究方法、実現可能性
2 年次	前半	論文作成計画発表	論文の章立て、論述の流れの適切性 参考文献の把握と読解、調査の計画性
	後半	修士論文概要発表	参考文献、調査資料の妥当性、信頼性、分析考察の周到さ 論文作成能力の到達度、論文規模

女性学専攻



Webサイト

ジェンダーの視点から文化と社会を研究します

女性学・ジェンダー研究は、20 世紀後半に成立した学問領域です。固定的な性規範に疑問を呈したフェミニズムに始まり、既存の学問体系を問い直して新たな研究の視点を提供してきました。本専攻は、日本で初めて女性学修士の学位を授与する大学院として 1996 年に開設され、女性と社会 / 女性と文化の2領域に分かれて学際・比較文化の視点からジェンダーに係る諸課題に取り組んでいます。初めて女性学・ジェンダー研究の扉を叩く人にも学びやすいカリキュラムが用意されており、「女性学基礎論」でフェミニズムの歴史や理論・研究方法を習得し、「ジェンダー研究」の諸講義を通じて、社会・文化研究へと其々の関心を発展させることが出来ます。

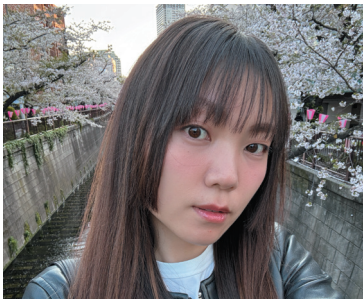
在学生の声

Student Voices



女性学専攻
殷 艾佳さん

中国における女性の就労や育児をめぐる問題に関心を持ち、より専門的にジェンダー研究を学ぶため大学院へ進学しました。本学大学院は、日本で初めて女性学専攻の修士課程を設置した歴史を持ち、ジェンダー研究を専門的に学べる環境が整っています。現在は、中国の「バオマー（宝妈）」と呼ばれる育児中の女性による SNS 発信やデジタル労働を研究し、育児や家事を担いながら収入を得る実践の背景にあるジェンダー役割や女性の働き方の変化について分析しています。ゼミでは担当指導教員の丁寧な指導のもと、研究を深めています。今後は大学院で得た知識を活かし、教育や研究分野で活動するとともに、中国と日本の社会課題を比較しながら、多様な立場の人々に寄り添える視点を持ち続けたいと考えています。



女性学専攻
李 思瀛さん

学部時代に現代美術への関心が高まり、より専門的に研究を深めるため大学院へ進学しました。本学大学院は、女性学研究の先駆的な伝統を持ち、美術理論とジェンダー研究を横断的に学べる環境が整っている点に魅力を感じました。現在は、塩田千春氏の糸のインスタレーションにおける色彩表現とジェンダー性について研究し、赤・黒・白の色彩体系が女性の身体や記憶、他者とのつながりをどのように表現しているのかを分析しています。ご指導頂いた先生のゼミでは、対話を通じて問いを深める指導を受け、自ら考えを磨く力を養うことができました。大学院で培った分析力や論理的思考力、多角的な視点を活かし、今後は社会のさまざまな場面で研究成果を役立てていきたいと考えています。

教員紹介 / 研究領域

Professors

※★印は研究指導教員です

教授 ★ 魚住 明代 UOZUMI, Akiyo	家族社会学 (家族論、ドイツの家族政策)	教授 ★ 川野 有佳 KAWANO, Yuka	開発学、途上国社会とジェンダー、 地域研究(南アジア・インド)
教授 ★ 遠藤 恵子 ENDO, Keiko	歴史社会学 (日本の女性政策史など)、 ライフコース視点に基づく研究など。	准教授 ★ トリシア フェルミン Tricia, Fermin	コミュニケーション社会学、 ポピュラーカルチャー研究 (特に日本アニメ・マンガの 海外受容・ファン文化)
教授 ★ 吉城寺 尚子 KICHIJOJI, Naoko	欧米圏の美術史、美術史学(特に 図像学、図像解釈学)。 表象文化(美術、文学、翻訳、映画) の学際的研究。		

カリキュラム

Curriculum

女性学基礎論(思想と理論)	女性学日本文資料講読A
女性学基礎論(研究/調査法)	女性学日本文資料講読 B
ジェンダー研究:社会A	女性学日本文資料講読 C
ジェンダー研究:社会B	女性学演習Ⅰ～Ⅳ
ジェンダー研究:社会C	
ジェンダー研究:社会D	
ジェンダー研究:文化A	
ジェンダー研究:文化B	
ジェンダー特別講義A	
ジェンダー特別講義B	
ジェンダー特別講義C	
女性学英文資料講読A	
女性学英文資料講読B	
女性学英文資料講読C	



修了までの研究プロセス

Degree Completion Timeline

学年	期間	発表会計画	指導内容・到達目標等
1 年次	入学時	研究計画書提出	入学後半年以内に、副指導教員2名以上を決定
	後半	研究中間発表	研究テーマの独創性、問題設定の妥当性 先行研究の把握 他分野の研究との関連性 研究方法、実現可能性
2 年次	前半	論文作成計画発表	論文の章立て、論述の流れの適切性 参考文献の把握と読解、調査の計画性
	後半	修士論文概要発表	参考文献、調査資料の妥当性、信頼性、分析考察の周到さ 論文作成能力の到達度、論文規模

グローバルコミュニケーション専攻



Webサイト

英語だけで修士号が取得できるAll Englishコースあり

高い異文化コミュニケーション能力を有した グローバル専門職業人を育成します

日本語教育分野

日本語学と日本語教育、第二言語習得の理論や概念を学び、それらが授業でどのように生かされているのか、自分がどのように実践したらいいのかを考えます。また、授業は演習を中心とした形式で行い、日本語教育の現場で教育実践をデザインする力を養成します。

翻訳・通訳分野

言語文化、異文化コミュニケーション、翻訳・通訳の理論と方法等を幅広く学び、日中の翻訳及び通訳に関する技能を習得し、実践によりその力を伸ばします。また、その実践を通して得た問題意識を研究につなげ、翻訳や通訳をする際のさまざまな課題に関する研究を行います。

TESOL 分野

The Teaching English to Speakers of Other Languages (TESOL) program is designed around current theories and applications of language learning and inter-cultural communication, with courses focusing on foundations of language teaching, linguistics, and curriculum and materials development. In addition, students learn transferable skills, which are essential in the modern global workplace, such as research methods, learner acquisition theory, and teaching methodology. Guidance in academic writing is supported throughout the program with specific courses and individualized advising. Finally, students create portfolios to record and show work completed, and gain practical teaching experiences in a variety of class situations.

修士生・在学生の声

Student and Alumni Voices



グローバルコミュニケーション専攻
武藤 千穂さん
2024年修了

英語を用いた仕事に就くため、より高度な英語運用能力を身につけたいと考え、大学院へ進学しました。本学大学院を選んだのは、学部時代にお世話になった先生方のもとで学びを深められることに加え、英語力や国際的な視点を高められる教育環境に魅力を感じたためです。在学中は、英語を第二言語として学んだ日本人大学生が第三言語を学ぶ際のモチベーションの変化やその要因について研究しました。また、実際に大学生へ英語を教える授業では、学ぶ側と教える側の両方の視点から英語教育を考える貴重な経験を得ることができました。現在は大使館で勤務し、英語を用いた業務運営や調整に携わっています。大学院で培った英語力と異文化理解力を活かしながら、国際的な環境で活躍しています。



グローバルコミュニケーション専攻
竹中 花菜さん

日本語教育について理論と実践の両面から専門的に学びたいと考え、大学院へ進学しました。学部時代の留学や日本語教育インターンシップを通して、言語を通じて異なる背景を持つ人々とつながることの魅力を実感し、将来は海外で日本語教師として活躍したいと考えています。本学大学院の魅力は、専門分野に特化した学びに加え、海外研修などの実践的な機会が充実している点です。現在は、日本語教育における CLIL（内容言語統合型学習）の有効性について研究しています。授業では実践的な指導法を学び、先生方から丁寧な指導を受けながら研究を深めています。今後は、大学院で得た知識と技術を活かし、学習者が主体的に学べる日本語教育を実践していきます。

教員紹介 / 研究領域

Professors

※★印は研究指導教員です

教授 ★市山 マリア しげみ Maria S. Ichiyama	TESOL分野 Curriculum development	客員教授 ★田原 TIAN, YUAN	翻訳・通訳分野 現代詩翻訳と研究
教授 ★宮 偉 GONG, WEI	翻訳・通訳分野 言語文化、日中翻訳	准教授 ★李 穎清 LI, YINGQING	翻訳・通訳分野 語彙意味論、日中翻訳学
教授 ★林 千賀 HAYASHI, Chiga	日本語教育分野 中間言語語用論、第二言語習得論、 日本語教育学、日本語教育実践、 異文化間コミュニケーション	准教授 ★王 岩 WANG, YAN	翻訳・通訳分野 比較文化、日中通訳・翻訳研究、 通訳教育研究
教授 塩出 浩和 SHIODE, Hirokazu	翻訳・通訳分野 中国近現代史、地域研究（マカオ）、 移民研究	准教授 ★萩原 幸司 HAGIHARA, Koji	日本語教育分野 言語学、日本語学、日本語教育学
教授 ティム ウールステンクロフト Timothy J. Woolstencroft	TESOL分野 Teaching methodology and materials design	准教授 トリシア フェルミン Tricia, Fermin	TESOL分野 コミュニケーション社会学、 ポピュラーカルチャー研究 (特に日本アニメ・マンガの海外受容・ファン文化)
教授 ★尾本 康裕 OMOTO, Yasuhiro	日本語教育分野 日本語教育学、第二言語習得研究、 ICT教育、教材開発	助教 ★鈴木 一徳 SUZUKI, Kazunori	日本語教育分野 第二言語習得研究(言語学アプローチ)、 心理言語学、応用言語学、日本語教育

カリキュラム

Curriculum

日本語教育分野

グローバルコミュニケーション基礎論（研究法・調査法）
日本語教育研究（意味論・語用論）
日本語教育研究（日本語教授法）
日本語教育研究（分野別日本語教育論）
日本語教育研究（日本語教育実践研究）
日本語教育研究（日本語習得研究）
日本語教育研究（日本語文法研究）

翻訳・通訳分野

グローバルコミュニケーション基礎論(翻訳学通訳学)
通訳の理論と方法A、B
翻訳の理論と方法A、B
日中通訳(会議・ビジネス)A、B
日中通訳(観光・コミュニティ)A、B
日中翻訳(時事・実務)A、B
日中翻訳(文芸・評論)A、B
日中同時通訳
通訳実習

TESOL 分野

Fundamentals of Global Communication [Research & Investigation]
Fundamentals of Global Communication [Academic Writing]

Curriculum and Materials Design I & II
English Language Structure Analysis
Foundations of English Language Teaching
Practicum

3 分野共通

グローバルコミュニケーション演習I～IV
グローバルコミュニケーション研究（言語学）
グローバルコミュニケーション研究（第二言語習得論）
グローバルコミュニケーション研究（異文化間コミュニケーション論）
グローバルコミュニケーション研究（日中対照言語学）
グローバルコミュニケーション研究（日本文化概説）
グローバルコミュニケーション特別講義 A、B



修了までの研究プロセス

Degree Completion Timeline

学年	期間	発表会計画	指導内容・到達目標等
1 年次	入学時	研究計画書提出	入学後半年以内に、副指導教員2名以上を決定
	後半	研究中間発表	研究テーマの独創性、問題設定の妥当性 先行研究の把握 他分野の研究との関連性 研究方法、実現可能性
2 年次	前半	論文作成計画発表	論文の章立て、論述の流れの適切性 参考文献の把握と読解、調査の計画性
	後半	修士論文概要発表	参考文献、調査資料の妥当性、信頼性、分析考察の周到さ 論文作成能力の到達度、論文規模

人文科学研究科

比較文化専攻



Webサイト

国際社会の中での学術発展並びに国際協働に貢献できる 比較文化的価値観を有した人材を育成します

比較文化専攻は「比較文化」「国際日本学」「比較ジェンダー論」の3分野で構成されており、博士後期課程として博士号にふさわしい論文の作成に向けて研究を継続・発展させることを目的としています。

「比較文化」：「日本と中国」や「日本とアメリカ」など、異なる国の文学・文化・歴史のつながりと差異を国際的かつ学際的な視点から研究します。

「国際日本学」：日本語教育や日本文学を先端的な方法論と国際的な視点で研究します。

「比較ジェンダー論」：社会問題をジェンダーの視点から比較文化的・学際的に研究します。

在学生の声

Student Voices



比較文化専攻
江幡 真貴子さん

ハワイの大学院修了後、大学で教鞭を執る中で、結婚・子育てと仕事を両立しながら研究を続ける難しさを感じ、博士課程への進学を決意しました。本学大学院は、社会人学生への理解があり、仕事や家庭と両立しながら研究に取り組める環境が整っている点に魅力を感じました。現在は、国内インターナショナル・スクールに通う日本人児童生徒の自尊感情形成について研究し、家庭や学校環境が子どもの自己認識に与える影響を分析しています。担当指導教員の温かくも厳しいご指導のもと、研究の意義や研究者としての姿勢を学ぶことができました。現在は大学教員として、大学院で得た知見を授業に活かしながら、学生にとって意義のある学びの場づくりに取り組んでいます。今後は研究をさらに発展させ、日本の語学教育に貢献していきたいと考えています。



比較文化専攻
常 瀚文さん

新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに、VR技術を活用した日本語教育に関心を持ち、修士課程での研究をさらに発展させるため大学院へ進学しました。本学大学院は、日本語教育に加え、ICT教育やVR活用など幅広い研究分野に触れられる環境や、国際色豊かな学習環境に魅力を感じたことが進学決め手です。現在は、VR特有の要素が日本語学習者の会話学習に与える影響について研究し、より自然なコミュニケーションを促す学習環境の可能性を探っています。研究指導では、先生方が一人ひとりのテーマに丁寧に向き合い、専門的な助言をくださることが印象に残っています。将来は、大学院で培った知識と研究成果を活かし、VR技術を活用した新しい日本語教育の実践に取り組み、学習者が主体的に学べる環境づくりに貢献したいと考えています。

教員紹介 / 研究領域

Professors

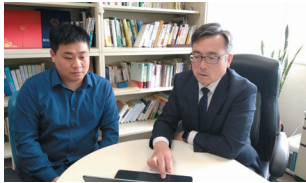
※★印は研究指導教員です

研究科長 / 教授 ★ 渡邊 拓 WATANABE, Taku	日本近代文学、 特に大正期の小説について	教授 ★ 塩出 浩和 SHIODE, Hirokazu	中国近現代史、地域研究(マカオ)、 移民研究
教授 ★ 倉林 真砂斗 KURABAYASHI, Masato	東アジア、比較考古学、文化資源	教授 ★ 中川 正臣 NAKAGAWA, Masaomi	言語教育学、韓国語教育学(カリキュラム デザイン、評価デザイン、 教室と社会を結ぶ学習デザインなど)
教授 ★ 魚住 明代 UOZUMI, Akiyo	家族社会学、ジェンダー論、 主な研究対象はドイツ	教授 尾本 康裕 OMOTO, Yasuhiro	日本語教育学、第二言語習得研究、 ICT教育
教授 ★ 岡田 美也子 OKADA, Miyako	日本文学、特に中世文学とその周辺、 説話文学と和歌・歌書の世界の交錯、 中世房総の文学	客員教授 ★ 田原 TIAN, YUAN	日本現代詩(谷川俊太郎を中心に研究・ 翻訳)、現代詩論
教授 ★ 袁 福之 EN, Fukuyuki	ビジネスモデル、コミュニティデザイン、 地域情報化、統計モデル	准教授 ★ 萩原 幸司 HAGIHARA, Koji	言語学、日本語学、日本語文法、 日本語教育学、日本語教育実践
教授 ★ 吉田 朋彦 YOSHIDA, Tomohiko	言語学、日本語学、 意味論・語用論とその関連領域	准教授 ★ 李 穎清 LI, YINGQING	言語学、語彙論、意味論、日中翻訳学
教授 ★ 林 千賀 HAYASHI, Chiga	中間言語語用論、第二言語習得論、 日本語教育学、日本語教育実践、 異文化間コミュニケーション	准教授 王 岩 WANG, YAN	日中比較文化、通訳翻訳研究
教授 ★ 宮 偉 GONG, WEI	言語文化、日中翻訳	准教授 長谷川 貴志 HASEGAWA, Takashi	日本近現代外交史、戦後史、 戦後日中関係史、アーカイブズ学
教授 ★ 芳賀 浩一 HAGA, Koichi	比較文学、現代日本文学、 環境批評理論		

カリキュラム

Curriculum

研究法概説(研究資源探索・論文執筆) 研究法概説(情報学・統計学) 日本文学特論A、B 日本語学特論A、B 日本語教育学特論A、B	地域文化特論A、B ジェンダー特論A、B 比較文化研究指導I～VI 比較ジェンダー論研究指導I～VI 国際日本学研究指導I～VI
---	--



修了までの研究プロセス

Degree Completion Timeline

学年	プログラム	備考
1 年次	入学時に研究計画書を提出 講義科目の履修/研究指導科目の履修(3年間継続) 研究報告書提出	複数指導体制の確立
2 年次	講義科目の履修/研究指導科目の履修(3年間継続) 資格試験(Qualifying Examination)の準備 (1)研究に関連する三分野を決定(2)リーディングリスト(Reading List)の作成(3)論文作成計画書の作成 資格試験(Qualifying Examination) 筆答試験と口答試験 (原則として2年次に実施) 論文作成計画審査(Prospectus 審査)の準備 論文作成計画書審査と口述試験 (原則として、論文作成資格試験に合格後、1年以内に実施) 研究報告書提出	「論文作成資格試験」の 申請は年2回5月末日、 11月末日。 副指導教員の決定
3 年次	研究指導科目の履修(3年間継続) 論文作成計画審査(Prospectus 審査) 論文作成計画書審査と口述試験 (原則として、論文作成資格試験に合格後、1年以内に実施) 博士論文執筆 博士論文予備審査願提出/予備審査(論文審査、口述試験) 博士論文提出/本審査(論文審査、最終口述試験)/公开发表 学位(博士)取得(3月または8月)	「博士論文(課程博士)」 の提出は年2回

起業マネジメント専攻



Webサイト

グローバルな視点とローカルな視点から 経営戦略とマネジメントを学びます

現代の社会では、日進月歩のデジタル技術に対応した経営のあり方を追求し、研究を進めていく必要があります。また、グローバルとローカルの複眼的視点に立ち、戦略と情報を高度に体系化した経営展開を行える力も重要となっています。

大学院経営情報学研究科起業マネジメント専攻では、このような社会の動きに対応できる専門人材の育成を目指し、経営組織の分析や市場に関する研究を進めています。研究を進めるにあたっては、指導教員による丁寧な指導を行うとともに、定期的に発表会を実施し、指導教員以外の視点や意見も取り入れながら、修士論文の作成を目指します。

本専攻では、地域に立脚した独立起業家をはじめ、世界各地において地域の発展に貢献できる人材の輩出を目指しています。修了後は、企業を支援する銀行、証券会社、保険会社、ベンチャーキャピタル、行政機関の専門スタッフ、多国籍企業の国際ビジネス担当マネージャーや戦略スタッフ、さらにコンサルティング企業やシンクタンクなど、幅広い分野での活躍が期待されます。

修了者の進路実績としては、中国建設銀行、北京中関村日本駐在事務所、株式会社近鉄エクスプレス、中国銀行〈Bank of China〉、JCOM株式会社、日本アイ・ビー・エム株式会社、株式会社ホームロジスティクス、株式会社C&Fロジホールディングス、NTT関連企業、都市銀行、地方銀行、大手商社、コンサルティング会社、博士課程への進学などがあります。

在学生の声

Student Voices



起業マネジメント専攻
張 璐璐さん

経営をより専門的に学び、将来の仕事や社会課題の解決に活かしたいと考え、大学院へ進学しました。経営と情報を組み合わせて学べる点に魅力を感じ、本学大学院を選びました。少人数制のため先生方との距離が近く、研究について丁寧に相談できる環境も大きな魅力です。現在は、観光と地域活性化の関係について研究しており、地域資源を活かした観光が地域住民の誇りや来訪者の体験価値を高め、持続的な発展にどのようにつながるのかを考察しています。授業や演習では、先生方の本質的な問いかけを通して、自ら考え、社会課題を多角的に捉える力を養うことができました。今後は、大学院で培った経営や情報活用の知識、課題発見力を活かし、日本と海外をつなぐ視点を持ちながら、企業や地域社会に貢献できる人材を目指しています。



起業マネジメント専攻
KHATANBAATAR ARIUNJARGALさん

モンゴルで大学卒業後、これまでの経験を振り返る中で、自分自身の成長を見つめ直し、以前から抱いていた進学の夢を実現するため本学大学院へ進学しました。学部時代に学んだ財務・会計の知識をさらに深め、経済分野で専門性を高めたいと考えています。本学大学院は留学生への支援体制が充実しており、安心して研究に取り組める環境に魅力を感じました。現在は、「モンゴルにおけるフィンテック・イノベーション促進のためのレギュラトリー・サンドボックス制度」について、日本の事例を参考に研究しています。授業では、渡邊先生の分かりやすく丁寧な指導が印象に残っており、安心して学びを深めることができます。今後は日本で実務経験を積み、その後モンゴルで社会に貢献できる仕事に活かしていきたいと考えています。

教員紹介 / 研究領域

Professors

※★印は研究指導教員です

研究科長 / 教授 ★ 山崎 督 YAMAZAKI, Tadashi	経営戦略論、マーケティング戦略論、 ブランドマネジメント論、中小企業論	教授 ★ 国武 陽子 KUNITAKE, Yoko	生態学、地域生態系保全
教授 ★ 渡邊 修朗 WATANABE, Nobuo	財政学、地方財政論	特任教授 ★ 増山 隆 MASUYAMA, Takashi	金融論、起業マネジメント論、 マーケティング論
教授 ★ 七井 誠一郎 NANAI, Seiichiro	国際マーケティング、 国際人的資源管理	准教授 成瀬 健一郎 NARUSE, Kenichiro	オペレーションズリサーチ、情報学
教授 亀山 浩文 KAMEYAMA, Hirofumi	情報科学	准教授 楊 沢宇 YO, Takuu	企業法、資本市場法
教授 ★ 石原 啓次 ISHIHARA, Keiji	健康づくり、スポーツ科学	准教授 ★ 松田 世治 MATSUDA, Seiji	経営戦略論、経営組織論
教授 ★ 神余 崇子 KANAMARU, Takako	地域経済総合論、国際経済政策	准教授 中村 智香 NAKAMURA, Chika	薬学、香り・におい
教授 ★ 深山 元良 MIYAMA, Motoyoshi	スポーツマネジメント、 スポーツ科学	助教 戸田 容平 TODA, Yohei	代数幾何学、暗号理論
教授 ★ 孫根 志華 SONE, Shika	中国マクロ経済政策、アジア経済、 デジタル経済		

カリキュラム

Curriculum

起業マネジメント基礎論Ⅰ	起業マネジメント特別講義(経済法)M
起業マネジメント基礎論Ⅱ	起業マネジメントケーススタディA
起業マネジメント基礎論Ⅲ	起業マネジメントケーススタディB
起業マネジメント基礎論Ⅳ	起業マネジメントケーススタディC
起業マネジメント特別講義(経営戦略論)A	起業マネジメント研究A
起業マネジメント特別講義(経営組織論)B	起業マネジメント研究B
起業マネジメント特別講義(経営情報論)C	起業マネジメント研究C
起業マネジメント特別講義(情報科学論)D	起業マネジメント研究D
起業マネジメント特別講義(経営情報システム論)E	起業マネジメント研究E
起業マネジメント特別講義(データ分析論)F	起業マネジメント研究F
起業マネジメント特別講義(企業価値評価論)G	起業マネジメント研究G
起業マネジメント特別講義(国際物流論)H	起業マネジメント研究H
起業マネジメント特別講義(流通機構論)I	起業マネジメント研究H
起業マネジメント特別講義(製品開発論)J	起業マネジメント演習(修士論文指導を含む)IA
起業マネジメント特別講義(財務会計論)K	起業マネジメント演習(修士論文指導を含む)IIA
起業マネジメント特別講義(グローバル経済論)L	

修了までの研究プロセス

Degree Completion Timeline

学年	期間	発表会計画	指導内容・到達目標等
1 年次	入学時	『研究計画書』提出	研究計画書を基に、指導教員および副指導教員2名以上を決定
	前半	修士論文研究計画発表	研究テーマの独創性、問題設定の妥当性
	後半	研究中間発表	研究方法の選択および実行の適切性
2 年次	前半	論文作成計画発表	研究の内容、章立て、論述の流れは適当か 調査の計画は適切か
	後半	修士論文概要発表	参考文献、調査資料の妥当性、信頼性、量的に十分であるか 論文作成能力の到達度

起業マネジメント専攻



Webサイト

高度な専門性を備えた職業人・研究者の養成を目指します

起業マネジメント専攻の博士後期課程では、新しい経済社会システムの創造とマネジメントに関する専門分野の研究を推進するとともに、その分野を担う研究者の育成を目指します。博士後期課程においては、「研究指導」を最重要科目と位置づけ、博士論文作成に向けて、在学中は主たる指導教員 1 人に加え、2 人の副指導教員を置く指導体制を整え、研究活動を支援します。

また、研究指導科目では、経済社会システムのパラダイム変化に対応するため、修士課程で学ぶ研究分野を基礎としながら、その先端的領域について学び、専門性をさらに深めていきます。これにより、学問的にも実践的にも新しい領域を切り開く高度な研究能力と実践的な課題解決力の修得を目指します。

本専攻の博士後期課程修了者は、大学、研究機関、シンクタンクなどの研究・教育機関をはじめ、公益法人、各種協会などにおいて、研究者や教育者として活躍することが期待されます。また、ベンチャー支援機関のスタッフなど、専門的知見を活かした多様な進路も開かれています。さらに、社会人学生の修了者については、もとの職域にとどまりながら、より高度な専門性を備えた業務を担当し、組織や社会の発展に貢献することも期待されます。

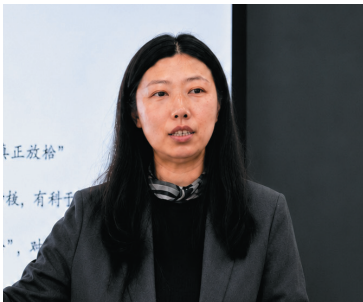
修了生の声

Alumni Voices



起業マネジメント専攻
張 景嵐さん
2023年修了

私は現在、中国遼寧省の瀋陽医科大学医療健康産業学院で福祉経営の准教授を務めております。主に学部生・大学院生向け高齢者サービス経営と医療健康経営関連の科目を担当しております。現在、世界的規模で高齢化が進行していますが、中国においても高齢化問題が喫緊の課題となってきました。城西国際大学で学んだ経験を生かし、高齢者向けの医療と福祉サービスに関する研究を開拓し、高齢者福祉経営に貢献できる研究者になりたいと考えております。



起業マネジメント専攻
修 英佳さん
2025年修了

現在、遼寧対外経貿学院に着任し観光学部講師として、「観光消費者行動学」「MICE 経営学」の授業を担当しております。城西国際大学で学んだ知識を一人でも多くの学生に伝えたいと考え、日々努力しています。MICEとは、企業等の会議、報奨・研修旅行、国際会議、展示会・見本市・イベント等の総称であり、応用範囲が広く、関心の高い分野です。今後は、日本での学会発表にも取り組みたいと考えています。

教員紹介 / 研究領域

Professors

※★印は研究指導教員です

研究科長 / 教授 ★ 山崎 督 YAMAZAKI, Tadashi	経営戦略論、マーケティング戦略論、 ブランドマネジメント論、中小企業論	教授 深山 元良 MIYAMA, Motoyoshi	スポーツマネジメント、 スポーツ科学
教授 ★ 渡邊 修朗 WATANABE, Nobuo	財政学、地方財政論	教授 ★ 孫根 志華 SONE, Shika	中国マクロ経済政策、アジア経済、 デジタル経済
教授 ★ 七井 誠一郎 NANAI, Seiichiro	国際マーケティング、 国際人的資源管理	教授 国武 陽子 KUNITAKE, Yoko	生態学、地域生態系保全
教授 ★ 亀山 浩文 KAMEYAMA, Hirofumi	情報科学	准教授 楊 沢宇 YO, Takuu	企業法、資本市場法
教授 神余 崇子 KANAMARU, Takako	地域経済総合論、国際経済政策		

カリキュラム

Curriculum

起業マネジメント特別講義(起業法務特論)A
起業マネジメント特別講義(経営情報システム設計論)B
起業マネジメント特別講義(グローバルロジスティクス管理論)C
起業マネジメント特別講義(起業ファイナンス論)D
起業マネジメント特別講義(組織ダイナミックス論)E
起業マネジメント特別講義(サプライチェーンシステム論)F
起業マネジメント特別講義(マーケティング組織戦略論)G
起業マネジメント特別講義(環境経営特論)H
起業マネジメント研究指導



修了までの研究プロセス

Degree Completion Timeline

学年	プログラム	備考
1 年次 (入学時)	入学時 研究計画書の提出	複数指導体制の確立
	講義科目の履修/研究指導科目の履修(3年間継続)	
	<研究報告書提出>	
2 年次	講義科目の履修/研究指導科目の履修(3年間継続)	「博士論文作成資格試験」 の申請は年2回、 5月末日、10月末日
	*資格審査(Qualifying Examination)に向けての準備 ●研究に関連する三分野を決定する。 ●Reading List の作成 ●論文作成計画書の作成	
	博士論文作成資格試験(Qualifying Examination) 筆答試験と口答試験 (原則として2年次に実施)	
	*博士論文作成計画審査(Prospectus 審査)に向けての準備 ●論文作成計画書の作成 論文テーマ選定理由、方法論、構成と要旨、参考文献及び資料の目録を含んだ内容とする。	
3 年次	<研究報告書提出>	「学位請求論文(課程博士)」の提出は年2回
	研究指導科目の履修(3年間継続)	
	博士論文作成計画審査(Prospectus 審査) 口述試験 (原則として、Qualifying Examinationに合格後、1年以内に実施)	
	「博士学位請求論文執筆」	
	博士論文予備提出/博士論文提出/最終口述試験/公开发表	
	学位(博士)取得(3月又は8月)	

福祉総合学研究科

福祉社会専攻



Webサイト

学際的視野から福祉・生活問題を研究し、福祉社会の構築に寄与する 福祉専門職、福祉教育・研究者、及びそれらの資質を備えた社会人を育成します

福祉社会専攻では、基礎論において福祉社会に関する研究を遂行する前提として、福祉哲学、科学的思考の方法、文献の読み方、社会調査の方法を習得します。それらをもとに、高齢・障がい者福祉研究、子ども・家庭福祉研究、保健医療福祉研究の各学問領域を選択して、それぞれのテーマ、問題意識に基づいて深く研究することが可能です。そのため、特論科目では様々な分野の科目を準備しています。また、特設科目としてアジアの福祉、地域共生社会論、ダイバーシティ社会論、福祉ビジネス論など最新のトピックを取り入れた科目を配置しています。

在学生の声

Student Voices



福祉社会専攻
徐 范婷さん

日本語学校の先生に勧められたことをきっかけに、高齢者福祉について専門的に学びたいと考え大学院へ進学しました。視能訓練士として働いていた経験から、高齢者の視力や生活との関わりに関心を持っています。福祉総合学研究科では留学生支援が充実しており、安心して学べる環境であることに加え、高齢者福祉を専門的に学べる点に魅力を感じました。現在は、中国における高齢者無料健康診断について研究しており、高齢者の受診率や健康意識、生活環境との関係について考察しています。授業では、老人ホームなどの福祉現場を見学する機会もあり、理解を深めることができました。今後は、大学院で学んだ知識を活かし、高齢者福祉に関わる仕事を通して現場支援に貢献していきたいと考えています。



福祉社会専攻
李 戈さん

私は「2+2共同教育プログラム」を通して福祉総合学科3年に編入し、中国の少子化や子ども福祉について学ぶ中で子どもを取り巻く課題に強い関心を持ち、さらに研究を深めたいと考え大学院に進学しました。大学院では、教育・福祉を多角的に学べる環境に加え、国際的な視点から福祉を学べる点に魅力を感じています。現在は、中国における学校いじめ問題への支援について研究しており、日本の支援制度や学校現場の対応を参考にしながら、中国における支援体制の課題を考察しています。先生方は文献の読み方や研究方法を丁寧に指導してくださり、安心して研究に取り組むことができています。今後は、大学院で培った知識や分析力を活かし、中国における学校いじめ支援体制の改善や子ども支援に貢献していきたいです。

教員紹介 / 研究領域

Professors

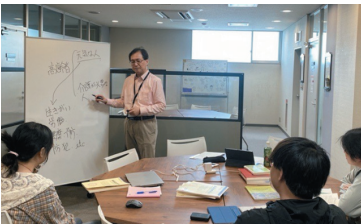
※★印は研究指導教員です

研究科長 / 教授 ★ 清水 正美 SHIMIZU, Masami	社会福祉学、社会福祉制度・政策、 公的扶助 (生活保護・低所得者対策)	准教授 ★ 高橋 淳一郎 TAKAHASHI, Junichiro	学校心理学・臨床心理学 (子どもの適応、問題行動、 予防的心理教育)、児童学
教授 ★ 小川 智子 OGAWA, Tomoko	社会福祉学、社会福祉援助技術教育、 社会福祉専門職教育	准教授 ★ 茆 海燕 MAO, HAIYAN	社会福祉学、中国高齢者福祉
教授 ★ 小島 克久 KOJIMA, Katsuhisa	高齢化対策、東アジアの介護制度、 人口高齢化、医療・介護の地域差、 統計制度、統計分析	准教授 ★ 森山 拓也 MORIYAMA, Takuya	社会福祉学、精神保健福祉、 社会福祉専門職教育、 リハビリテーション
教授 ★ 所 貞之 TOKORO, Sadayuki	社会福祉学、児童福祉 (健全育成、虐待予防)	准教授 ★ 安田 孝 YASUDA, Takashi	教育心理学、認知心理学、 リカレント教育、社会調査
教授 ★ 林 和歌子 HAYASHI, Wakako	社会福祉学、高齢者福祉、 ソーシャルワーク、介護福祉教育	助教 馬場 康徳 BABA, Yasunori	居住福祉学、地域福祉、住生活、 仏教ソーシャルワーク
教授 ★ 広瀬 美和 HIROSE, Miwa	発達心理学・幼児教育学 (乳幼児の社会性の発達、 保育者・養育者の発達)	助教 綿貫 文野 WATANUKI, Fumino	保育学、保育経営、子育て支援、 保育現場におけるICT活用と連絡帳 の役割
教授 ★ 堀 千鶴子 HORI, Chizuko	社会福祉学、女性福祉、 女性支援事業		

カリキュラム

Curriculum

福祉社会基礎論(福祉社会原論)	福祉社会特論(医療福祉)
福祉社会基礎論(論文作成)	福祉社会特論(心理)
福祉社会基礎論(社会調査)	福祉社会特論(ソーシャルワーク)
福祉社会基礎論(文献講読)	福祉社会特論(社会福祉教育)
福祉社会特論(高齢者保健福祉)	福祉社会特論(地域福祉)
福祉社会特論(障がい福祉)	地域共生社会論
福祉社会特論(児童福祉・保育)	ダイバーシティ社会論
福祉社会特論(女性福祉)	福祉ビジネス論
福祉社会特論(国際社会福祉)	
福祉社会特論(貧困・低所得)	
福祉社会特論(社会保障)	



修了までの研究プロセス

Degree Completion Timeline

学年	期間	発表会計画	指導内容・到達目標等
1 年次	入学時	『研究計画書』提出	指導教員および副指導教員2名以上を決定する。
	後半	研究中間発表	研究テーマ、問題設定の妥当性、研究方法とその適格性等を審査する。
2 年次	前半	論文作成計画発表	研究計画および論文構成の妥当性、参考文献、調査・資料収集の適格性等を審査する。
	後半	修士論文概要発表	研究論文としての量的・質的妥当性、データおよび資料、先行研究等の分析の適格性、論文作成の進行状況等を審査する。

ビジネスデザイン専攻



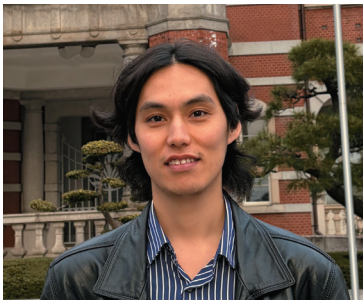
Webサイト

マネジメント・デザイン・表象文化を総合的に学ぶビジネススクール

ビジネスデザイン研究科は、マネジメント・デザイン・表象文化を融合した学際的な教育研究を特色とし、既存の枠組みにとらわれない発想力と実践力を養成するビジネススクールです。ビジネスデザイン思考を基盤に、企業経営や社会課題を多角的に分析し、多様なステークホルダーと協働しながら新たな価値創造やイノベーションを生み出す力を育成します。東京紀尾井町キャンパスを拠点に、様々なバックボーンをもつ教員と学生が集い、「狭い専門性」ではなく「幅広い専門性」と俯瞰的な視野を身につけることを意識し、実務経験を活かした研究やキャリア形成を支援しています。理論と実践を往還しながら、変化の時代を切り拓く高度専門人材の育成を行っています。

在学生の声

Student Voices



ビジネスデザイン専攻
BAT-AYUSH TSOGTBAYARさん

学部時代に水インフラについて学ぶ中で、社会課題は技術だけでは解決できないことを実感し、経営学の視点から研究を深めるため大学院へ進学しました。本学大学院は、経営学を実践的に学べるだけでなく、多様な価値観を持つ学生と交流しながら社会課題を多角的に考えられる環境に魅力を感じました。現在は、モンゴルにおける持続可能な水インフラと水サービスについて研究しており、技術面だけでなく、運営管理や住民意識、サービスの継続性を含めた水資源マネジメントについて考察しています。授業では、先生方から「なぜその問題が起きるのか」を深く考える姿勢を学び、自ら課題を発見し考え続ける力を養うことができました。今後は、大学院で得た知識を活かし、モンゴルの水インフラ改善と持続可能な社会づくりに貢献したいと考えています。



ビジネスデザイン専攻
李 雯さん

日本で会社を経営し、中国・日本・中東など複数地域で事業を展開する中で、実務経験だけでは限界を感じ、MBAレベルの経営知識を体系的に学ぶため大学院へ進学しました。本学大学院は、理論だけでなく実践を重視した教育環境が整っており、事業創造やビジネスモデル設計を実践的に学べる点に魅力を感じています。現在は、ドバイ市場における越境ECと日本ブランドについて研究しており、日本ブランドに対する海外消費者の認識や購買行動を分析しています。授業では、企業や自治体の実務担当者との議論を通して、実践的な視点を学ぶことができました。大学院で得た知識はすでに自社経営にも活かされており、今後も学びと実践を結びつけながら、持続的な事業成長につなげていきたいと考えています。

教員紹介 / 研究領域

Professors

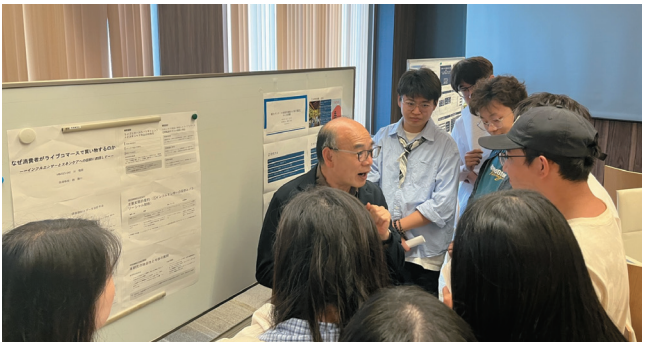
※★印は研究指導教員です

研究科長 / 教授 ★ 小渕 究 OBUCHI, Kiwamu	会計学、マーケティング	准教授 星野 卓也 HOSHINO, Takuya	エンタテインメント・マネジメント、 コンテンツ・プロデュース
教授 ★ 袁 福之 EN, Fukuyuki	デジタルマーケティング、 ビジネスモデル、地域情報	助教 大絵 晃世 OE, Akiyo	芸術学、博物館学、アーカイブズ学
教授 寺本 卓史 TERAMOTO, Takuji	情報社会論、メディア論、 経営情報論、社会学	准教授 滝口 幸子 TAKIGUCHI, Sachiko	民族音楽学
教授 ★ 趙 勝川 ZHAO, SHENGCHUAN	都市工学、都市交通計画、 交通経済学	准教授 ★ 吉岡 美愛 YOSHIOKA, Mie	デジタル経済、国際関係、 グローバル経済動向
特任教授 ★ 大江 宏子 OE, Hiroko	経済学、コミュニケーション論、 コミュニティデザイン	准教授 ★ 于 航 YU, HANG	観光地域論、ヘルスツーリズム、 インバウンド観光
教授 ★ 黄 仙惠 HWANG, SEONHYE	メディアデザイン学、コンテンツビジネス、 メディア情報、社会学		

カリキュラム

Curriculum

ビジネスデザイン基礎論(研究調査法)
ビジネスデザイン基礎論(ロジカルライティング)
ビジネスデザイン基礎論(組織論)
ビジネスデザイン基礎論(マネジメント原理)
ビジネスデザイン基礎論(マーケティングマネジメント)
ビジュアルコミュニケーション
コーポレートコミュニケーション
デザインマネジメント
広報広告戦略
ビジネスモデルデザイン
コミュニティデザイン
ブランドマネジメント
IT 戦略マネジメント
事例研究(日本企業)
事例研究(企業マネジメント)
プロジェクト研究
表象文化研究
視覚文化論



修了までの研究プロセス

Degree Completion Timeline

学年	期間	発表会計画	指導内容・到達目標等
1 年次	入学時	『研究計画書』提出	
2 年次	前半	修士論文作成計画発表	研究テーマの研究意義、問題設定、独創性の妥当性 研究方法、参考文献、調査・資料収集の計画性
	後半	修士論文概要発表	参考文献、調査資料、データ分析の適切さと信頼性 論文作成能力の到達度

薬学研究科

医療薬学専攻



Webサイト

これからの保健・医療・福祉ニーズを見据え、実践力と研究力を備えた専門家を育成します

薬学研究科医療薬学専攻は、高齢化や国際化が進展する現代社会における保健・医療・福祉の多様な課題に対応できる、高度専門職業人および研究者の養成を目的としています。医療薬学、臨床薬学、生命薬学、創製薬学を横断する体系的な教育・研究指導を通じて、課題発見・解決能力と科学的洞察力を培います。さらに、社会薬学やレギュラトリーサイエンスを含む学際的研究を推進し、医薬品の創製から適正使用に至るまでを俯瞰できる広い視野と実践的研究能力を養成します。また、産学官連携や地域医療との協働を通じて実践力を高めるとともに、社会人にも配慮した柔軟な修学環境を整備し、専門性の深化と継続的な研究活動を支援します。医療と社会の発展に貢献できるリーダー人材を育成します。

在学生の声

Student Voices



医療薬学専攻
榎戸 雄紀さん

薬学部卒業から10年の節目を迎え、以前から関心のあった博士号取得に挑戦したいと考え、社会人大学院生として進学しました。本学大学院は、働きながら学位取得を目指す環境が整っており、勤務と研究を両立できる点に魅力を感じています。現在は、潰瘍性大腸炎モデルマウスを用いて、寛解期に生じる過敏性腸症候群様の内臓痛覚過敏のメカニズム解明と治療薬探索について研究しています。授業では、集中講義など社会人でも学びやすい体制が整っており、学会発表にも挑戦する機会をいただいています。先生方からは丁寧な研究指導を受けており、研究を深めることができています。今後は、大学院で培った科学的洞察力を活かし、医療薬学領域における課題解決や実臨床への貢献につなげていきたいと考えています。

教員紹介 / 研究領域

Professors

※★印は研究指導教員です

研究科長 / 教授 ★堀江 俊治 HORIE, Shunji	薬理学	教授 ★山崎 研 YAMAZAKI, Toru	毒性学
准教授 ★松本 かおり MATSUMOTO, Kaori	薬物動態学	教授 ★酒井 健介 SAKAI, Kensuke	食品機能学
教授 ★森 健二 MORI, Kenji	製剤物理化学	教授 ★額賀 路嘉 NUKAGA, Michiyoshi	構造生物学

准教授 ★押坂 勇志 OSHIZAKA, Takeshi	製剤物理化学	教授 ★田嶋 公人 TASHIMA, Kimihito	薬理学
教授 ★竹内 一成 TAKEUCHI, Issei	薬物送達学	教授 ★小林 江梨子 KOBAYASHI, Eriko	社会薬学
教授 ★新倉 雄一 NIIKURA, Yuichi	再生医療学	准教授 ★櫻田 大也 SAKURADA, Tomoya	地域医療薬学
准教授 ★大原 厚祐 OHARA, Kosuke	漢方学	教授 ★小柳 順一 KOYANAGI, Junichi	生物有機化学
教授 ★佐々木 英久 SASAKI, Hidehisa	薬物治療学	准教授 亀井 智代 KAMEI, Tomoyo	生物有機化学
教授 ★光本 篤史 MITSUMOTO, Atsushi	毒性学	教授 ★懸川 友人 KAKEGAWA, Tomohito	薬効・安全性学

カリキュラム

Curriculum

薬剤疫学特別演習	医療薬学特別演習
性差創薬科学特別演習	大学院特別講義
社会薬学特別演習	大学院特別演習
地域医療学特別演習	
国際薬学特別演習	
医療薬学演習	
医療薬学特論	
臨床薬学特論	
生命薬学特論	
創製薬学特論	



修了までの研究プロセス

Degree Completion Timeline

学年	プログラム	備考
1 年次 (入学時)	入学時 研究計画書の立案/薬学特論の履修(4年間継続)	所属講座主任の指導
	講義科目の履修	
	医療薬学演習、薬学特論/研究計画書のプレゼンテーション/研究計画書の完成	複数の教員による指導体制の確立
2 年次	薬学特論の履修(4年間継続)	所属講座主任の指導
	講義科目の履修	
	医療薬学特別演習、薬学特論/研究中間報告書のプレゼンテーション	複数の教員による指導体制 形成的評価
3 年次	薬学特論の履修(4年間継続)	所属講座主任の指導
	講義科目の履修	
	医療薬学特別演習、薬学特論/研究中間報告書のプレゼンテーション	複数の教員による指導体制 形成的評価
4 年次	薬学特論の履修(4年間継続)	所属講座主任の指導
	講義科目の履修	
	医療薬学特別演習、薬学特論/研究中間報告書のプレゼンテーション	複数の教員による指導体制 形成的評価
	博士論文作成(12 月提出)/学位論文審査/博士論文発表会で発表 口述試験/学位論文審査委員会による審査	
	学位(博士)取得(3月)	

国際アドミニストレーション専攻



Webサイト

ビジネス・アドミニストレーターとパブリック・アドミニストレーターを育成する、新時代にマッチした国際色豊かなカリキュラム

国際アドミニストレーション研究科は、ビジネス・アドミニストレーターおよびパブリック・アドミニストレーターの育成を目的とし、国際政治・経済研究、国際企業研究、政策研究、観光研究の4分野を中心に実践的な教育研究を展開しています。東京紀尾井町キャンパスの立地を活かし、社会人にも配慮した夕方開講やAll Englishコースを設置しているほか、多様で実務経験豊富な教員による指導を通じて、グローバル社会で活躍できる高度専門職業人の育成を目指しています。また、実務経験を活かした研究や柔軟な履修制度により、働きながら学べる環境を整えています。

在学生の声

Student Voices



国際アドミニストレーション専攻
Renée Low Zi Ningさん

日本語や文化への関心から日本留学を決意し、シンガポールの大学卒業後に大学院へ進学しました。本学大学院は、経済学やイノベーション、政策研究など幅広い分野を学べることに加え、多国籍の学生と交流できる国際的な環境に魅力を感じました。現在は、多国籍企業におけるデジタル研修システムが、シンガポールの高齢労働者のデジタルスキル向上にどのような影響を与えるのかを研究しています。授業では、先生方から実践的かつ熱意ある指導を受け、深く考える力を養うことができました。今後は、大学院で得た知識や研究成果を実社会で活かしながら、さらに研究を進展させ、学術的・専門的に成長していきたいと考えています。



国際アドミニストレーション専攻
大江 武蔵さん

国際的な知識や多国籍企業への関心から、より専門的に学びたいという思いと、研究に挑戦したいという気持ちから大学院進学を決めました。国際アドミニストレーション研究科では、国際企業や経済について幅広く学べる点に魅力を感じています。本学大学院は、紀尾井町キャンパスの充実した学習環境や、教職員の親身なサポートに惹かれ進学を決めました。現在は、ポケモンGOなどのモバイルゲームが地域愛着や人間関係、幸福度に与える影響について研究し指導教員の実践的な指導のもと、研究を深めています。将来は博士課程へ進学し、大学教員として英語や自身の経験を活かしながら、学生の成長を支えられる存在を目指しています。

教員紹介 / 研究領域

Professors

※★印は研究指導教員です

研究科長 / 教授 ★石井 伸一 ISHII, Shinichi	経営戦略、サプライチェーンマネジメント、ロジスティクス、観光マーケティング	教授 長谷川 正人 HASEGAWA, Masato	航空ビジネス、経営管理
教授 ★松本 茂 MATSUMOTO, Shigeru	企業戦略、M&A、事業分析と価値評価	教授 呉 小莉 WU, Xiaoli	第2言語習得研究、異文化コミュニケーション学
教授 ★黒澤 武邦 KUROSAWA, Takekuni	都市計画、観光まちづくり、公共政策、政治・政策形成プロセス	准教授 石谷 昌司 ISHITANI, Masashi	観光英語、ホスピタリティ・サービス・マネジメント
教授 ★赤木 徳顕 AKAGI, Tokuaki	マーケティング、データサイエンス、AI	特任教授 ★ティティ レイ THI THI, Lay	アジア/ASEAN政治・経済・社会、日ASEAN人材育成・技術協力
准教授 ★小松 悟朗 KOMATSU, Goro	マクロ経済学、金融政策、計量経済学、データサイエンス	教授 デイビッド ウィリアムズ DAVID Williams	環境・農学、観光学

カリキュラム

Curriculum

研究基礎・学術論文執筆 統計学 経営・経済 国際アドミニストレーション概論 観光関連産業 法・行政 都市再生 福祉 国際政治経済 データサイエンス 政治リスク分析	国際観光開発 アジアの政治・経済・社会 日本企業研究 ベンチャー企業 企業戦略 サプライチェーンマネジメント イノベーションマネジメント マーケティング戦略 フィールドワーク
---	---



修了までの研究プロセス

Degree Completion Timeline

学年	学期・発表会計画	到達目標
1年目	発表①『研究計画発表会』	研究テーマの設定 ・研究テーマに関する先行研究の整理 ・研究のリサーチクエスション、仮説の設定 ・研究対象の選定 ・対象とする専門領域の選定
	発表②『研究中間報告発表会』 ・先行研究整理の報告 ・リサーチクエスションと調査計画の報告	分析手法と調査計画の決定 ・定性分析と定量分析の両方またはどちらか一方の選択 ・データ収集やインタビューなど実現可能な調査計画の作成 ・調査分析とリサーチクエスションとの整合性の確認 ・論文構成の決定
2年目	発表③『修士論文作成計画発表会』 ・調査の実施、分析状況の報告	調査分析の実行と結果の考察 ・調査方法、対象、データ収集、結果に関するまとめ ・調査分析結果に関する考察とその客観性、論理性的の確認
	発表④『修士論文概要発表会』 ・最終的な論文構成の報告 ・分析結果と考察の報告	論文の完成 ・結論の導出
	論文審査 最終口述試験 ・口頭での論文概要の説明、質疑応答	論文の提出 ※口述試験において、修正の指示があった場合には、修正の上、再提出

Graduate School of International Administration



Web Site

A vibrant, internationally oriented curriculum Nurturing business and public administrators for a new era

Graduate School of International Administration aims to cultivate highly skilled business and public administrators who can respond effectively to the challenges of an increasingly globalized and complex society. The Graduate School offers practice-oriented education and research in four core fields: International Politics and Economic Studies, International Business Studies, Policy Studies, and Tourism Studies. Emphasizing both theoretical understanding and practical application, the program encourages students to analyze social and organizational issues from multidisciplinary and international perspectives. Taking advantage of its convenient location at the Tokyo Kioicho Campus, the Graduate School provides evening classes designed for working professionals, as well as an All-English course that enables students to complete their degree entirely in English. Students receive guidance from faculty members with diverse academic expertise and extensive professional experience, fostering both academic growth and professional development. In addition, flexible study arrangements and research opportunities that incorporate students' professional experience allow them to balance their careers with graduate-level study in a dynamic and internationally oriented learning environment.

Student Voices



International Administration
Renée Low Zi Ning

I decided to study in Japan because of my long-standing interest in the Japanese language and culture, and after graduating from a university in Singapore, I chose to pursue graduate studies in Japan. I was attracted to this graduate school because it offers a wide range of subjects, including economics, innovation, and policy studies, as well as an international environment where students from diverse backgrounds can exchange ideas. Currently, I am researching how digital training systems in multinational corporations affect the digital upskilling of older workers in Singapore. Through my classes, I received practical and passionate guidance from faculty members, which enabled me to develop strong critical thinking skills. In the future, I hope to apply the knowledge and research skills I have gained in graduate school to real-world settings while continuing to deepen my research and grow both academically and professionally.



International Administration
Musashi Oe

I decided to enter graduate school because I wanted to deepen my knowledge in the fields I am passionate about and challenge myself through academic research. I chose the Graduate School of International Administration because of my strong interest in international knowledge and global corporations. I was also attracted to Josai International University's supportive learning environment, the many learning opportunities offered at the Kioicho Campus, and the kindness of the faculty and staff. Currently, I am researching the mobile game Pokémon GO, focusing on how it influences players' attachment to local communities, social interactions among players, and their overall happiness and well-being. Under the passionate and practical guidance of faculty members, I am deepening my research. Through my graduate studies, I hope to continue on to a doctoral program and eventually become a university professor who can inspire and educate future generations by sharing my knowledge, experiences, and passion for learning.

Faculty and their Research Interests

※★ Indicates the faculty member responsible for each seminar.

★ Dean/Professor ISHII, Shinichi	Management Strategy, Supply Chain Management, Logistics, Tourism Marketing	Professor HASEGAWA, Masato	Airline Industry, Business Management
★ Professor MATSUMOTO, Shigeru	Corporate Strategy, Mergers and Acquisitions (M&A), Business Analysis and Valuation	Professor WU, Xiaoli	Second Language Acquisition, Intercultural Communication
★ Professor KUROSAWA, Takekuni	City Planning, Tourism and Community Development, Public Policy, Politics and Policy-Making Processes	Associate Professor ISHITANI, Masashi	Tourism English, Hospitality Service Management
★ Professor AKAGI, Tokuaki	Marketing, Data Science, AI	★ Specially Appointed Professor THI THI, Lay	Asian/ASEAN Politics, Economy, and Society; Japan-ASEAN Human Resource Development and Technical Cooperation
★ Associate Professor KOMATSU, Goro	Macroeconomics, Monetary Policy, Econometrics, Data Science	Professor DAVID Williams	Environmental Studies, Agricultural Studies, Tourism Studies

Curriculum

Academic Research and Writing	Asian Politics, Economy, and Society
Statistics	Career Development
Business Administration and Economics	Japanese Business Study
Introduction to International Administration	Venture Business
Public Policy	Supply Chain Management
Urban Planning	Innovation Management
International Political Economy	Marketing Strategy
Tourism Industry	Corporate Finance
Political Risk Management	Data Science
	Brand Strategy
	Hospitality Management



Milestones of Research Work

		Seminar work	What to demonstrate in your research Presentation	Relevant courses (requirement)
	1st Semester	Frame a research theme Conduct literature review Design research questions and hypothesis Select research target and focus	Presentation① Introduction of your research angle	
1st Year	2nd Semester	Develop research plan Select research methodology, qualitative and/or quantitative approach Develop research plan for data collection and confirm its feasibility Confirm the congruence between analysis and your research question Frame the overall structure of your thesis	Presentation② A summary of literature review Research question and research plan The progress from the last presentation	Theory & Methodologies a. Research and Writing b. Statistics
	3rd Semester	Conduct research and analyze its results Document research methodology, targets, data, and results Analyze research results and examine its objectivity and logic	Presentation③ Research results and analysis The progress from the last presentation	
2nd year	4th Semester	Complete and submit thesis Deliver a conclusion of research	Presentation④ The structure of thesis Analysis and conclusion The progress from the last presentation	
		Submit the complete version of your thesis (Revise and re-submit thesis after oral defense, if required)	Thesis evaluation by evaluators Oral defense	

Evaluation criteria:
Objectivity: A thesis includes proper literature review as well as objective data to support your argument.
Logic: Thesis is logically and cohesively organized, driven by a specific research question, research results and conclusion.
Format: A thesis includes reference, citations, and quotations in a proper and complete manner.
Originality: A thesis is based on your original perspective, data and analysis.

健康科学研究科

健康科学専攻



Webサイト

保健・医療・福祉を総合的に捉える広い視野を備え、自らの専門分野の
深化・発展に主体的に取り組むことのできる高度専門職業人の養成を目指します

健康科学研究科健康科学専攻は、保健・医療・福祉を横断する学際的教育を基盤とし、創造性豊かな研究者の養成に加え、科学的根拠に基づく実践力と研究力を兼ね備えた高度専門職業人の育成を目的としています。基礎から臨床に至る研究手法の体系的教育により、研究的視点に基づく課題解決能力を養います。さらに、健康薬科学、看護学、リハビリテーション学の3領域からなる学際的体制のもと、多職種連携や地域医療を重視した実践的カリキュラムと臨床現場での直接的指導を展開しています。現職者にも配慮した柔軟な修学環境と個別指導により、専門性の深化と多角的理解を促進し、国際的視野を備え、社会に貢献できる人材を育成します。

在学生の声

Student Voices



健康科学専攻
片桐 梨成さん

女性医療に関する学会で横井悠加先生の講演を拝聴したことをきっかけに、理学療法士として女性医療の発展に貢献したいと考え、大学院へ進学しました。本学大学院は、理学療法だけでなく看護師や助産師など多職種の視点から学べる環境が整っており、ウイメンズヘルスに関する専門的な学びを深められる点に魅力を感じました。現在は、骨盤底筋群の収縮が困難な女性に対する表面電気刺激の作用機序について研究しています。「ウイメンズ特論」では、多職種によるディスカッションを通して女性医療における連携の重要性を学びました。先生方は相談しやすく、丁寧に指導して下さるため、安心して研究に取り組むことができています。今後は、大学院で培った研究的視点や論理的思考力を臨床に活かし、女性のライフステージに寄り添った理学療法の発展に貢献していきたいと考えています。



健康科学専攻
渡邊 さやかさん

小児看護の実習指導教員として勤務した経験から、看護学生を育てる喜びとやりがいを感じ、より専門的に学ぶため大学院へ進学しました。本学大学院は、子育てや仕事と両立しながら学べる環境が整っており、幅広い分野で活躍される先生方から学べる点に魅力を感じました。現在は、小児期に熱傷を負い瘢痕を残しながら生きてきた成人女性のライフストーリー研究を行っています。授業では、看護学だけでなく薬学や理学療法など多分野の視点から学ぶことで、知識と視野を広げることができました。特に実践カウンセリング論では、院生同士で悩みを共有しながら学びを深め、現在の家庭や仕事にも活かされています。現在は本学看護学科の助手として、大学院での学びを教育や学生支援の場に活かしています。

教員紹介 / 研究領域

Professors

※★印は研究指導教員です

研究科長 / 教授 ★宮澤 純子 MIYAZAWA, Junko	看護学領域 母子保健看護学、 生涯発達看護学	教授 ★鈴木 明子 SUZUKI, Akiko	看護学領域 感染制御学、地域・在宅・公衆 衛生看護学	准教授 土屋 綾子 TSUCHIYA, Ayako	看護学領域 学校保健学、健康教育
教授 ★四十竹 美千代 AITAKE, Michiyo	看護学領域 成人看護学、看護技術、生理学	教授 ★竹内 弥彦 TAKEUCHI, Yahiko	リハビリテーション学領域 バイオメカニクス、 予防理学療法	准教授 ★中尾 英俊 NAKAO, Hidetoshi	リハビリテーション学領域 運動器系スポーツリハビリテー ション
教授 ★太田 篤胤 OTA, Atsutane	健康薬科学領域 食品機能学、臨床栄養学	教授 ★谷内 幸喜 TANIUCHI, Kouki	リハビリテーション学領域 神経系理学療法学、 介護予防学	准教授 中野 元 NAKANO, Hajime	看護学領域 成人看護学、看護技術、生理学
教授 大西 忠輔 ONISHI, Tadasuke	リハビリテーション学領域 義肢装具学、人間医工学 (生体医工学)	教授 ★二宮 彩子 NINOMIYA, Ayako	看護学領域 基礎看護学、看護管理	准教授 ★西口 慶一 NISHIGUCHI, Yoshikazu	健康薬科学領域 分子生物学、進化医学
教授 ★大橋 優紀子 OHASHI, Yukiko	看護学領域 生涯発達看護学、 小児・家族看護学、メンタルヘルス	教授 ★濱田 昌実 HAMADA, Masami	看護学領域 地域・在宅・公衆衛生看護学	准教授 山根 主信 YAMANE, Kazumasa	リハビリテーション学領域 呼吸リハビリテーション
教授 ★大森 直哉 OMORI, Naoya	感染制御学 健康薬科学特論(演習)、 特別研究	教授 ★森下 勝行 MORISHITA, Katsuyuki	リハビリテーション学領域 物理療法学、 超音波イメージング	准教授 横井 悠加 YOKOI, Yuka	リハビリテーション学領域 ウイメンズヘルスリハビリテー ション
教授 ★鳥野 大 KARASUNO, Hiroshi	リハビリテーション学領域 物理療法学、バイオメカニクス	教授 ★森藤 武 MORIFUJI, Takeshi	リハビリテーション学領域 運動器系スポーツリハビリテー ション	助教 安齋 紗保理 ANZAI, Saori	リハビリテーション学領域 老年学、介護予防
教授 ★北田 素子 KITADA, Motoko	看護学領域 基礎看護学、看護技術	准教授 伊賀 聡子 IGA, Satoko	看護学領域 精神看護学	助教 石井 恵美子 ISHII, Emiko	看護学領域 母子保健看護学
教授 栗原 靖 KURIHARA, Yasushi	リハビリテーション学領域 バイオメカニクス、 スポーツ理学療法	准教授 大杉 紘徳 OSUGI, Hironori	リハビリテーション学領域 地域理学療法学、健康増進	助教 神谷 貞浩 KAMIYA, Sadahiro	健康薬科学領域 細胞生物学、分子生物学
教授 ★後藤 武 GOTO, Takeshi	感染制御学 健康薬科学特論(演習)、 特別研究	准教授 小川 明宏 OGAWA, Akihiro	リハビリテーション学領域 内部障害系理学療法学、 運動生理学	助教 深谷 泰山 FUKAYA, Taizan	リハビリテーション学領域 基礎理学療法学、 ストレッチング
教授 ★酒井 健介 SAKAI, Kensuke	健康薬科学領域 栄養学、食品衛生学	准教授 樺島 稔 KABASHIMA, Minoru	看護学領域 基礎看護学、看護技術	助教 松本 仁美 MATSUMOTO, Hitomi	リハビリテーション学領域 神経系理学療法学、 基礎理学療法学
教授 ★清水 清美 SHIMIZU, Kiyomi	看護学領域 生涯発達看護学、 ウイメンズヘルスリハビリテーション	准教授 桑江 豊 KUWAE, Yutaka	リハビリテーション学領域 基礎理学療法学、 理学療法教育		

カリキュラム

Curriculum

健康科学総合特論 健康科学特論 実践カウンセリング特論 マネジメント特論 地域包括ケア特論 バイオサイエンス技術特論 臨床工学特論 ウイメンズヘルス特論 教育学特論 統計学基礎特論 研究方法特論 健康薬科学特論 健康薬科学演習	臨床看護学特論 臨床看護学演習 生涯発達学特論 生涯発達学演習 感染制御学特論 感染制御学演習 臨床リハビリテーション学特論 臨床リハビリテーション学演習 地域系リハビリテーション学特論 地域系リハビリテーション学演習 運動機能障害系リハビリテーション学特論 運動機能障害系リハビリテーション学演習 特別研究
---	--

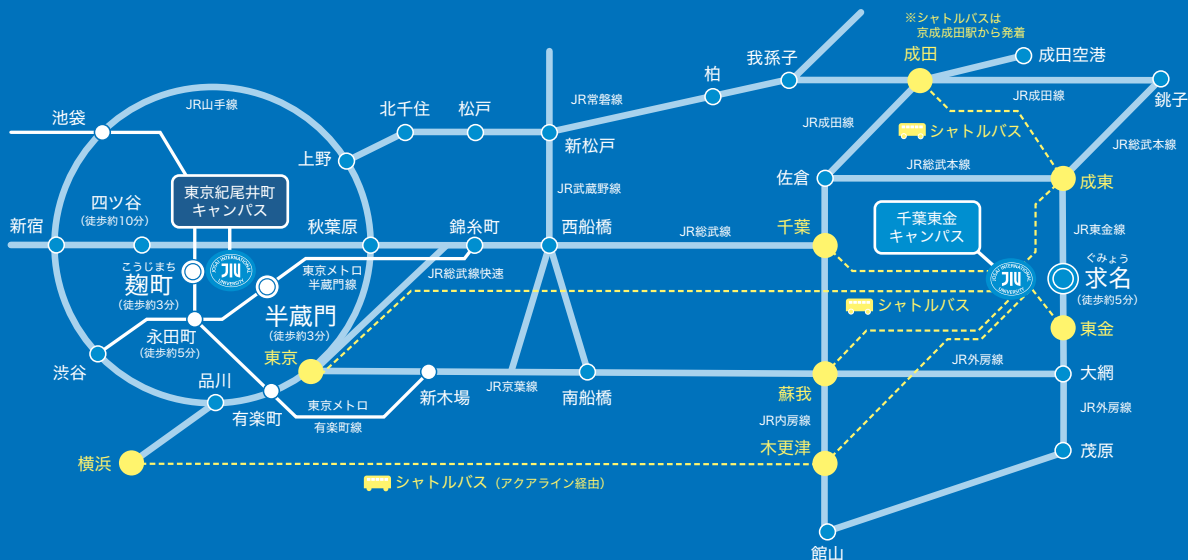


修了までの研究プロセス

Degree Completion Timeline

学年	期間	発表会計画	指導内容・到達目標等
1 年次	入学時	研究課題の決定	研究指導教員および研究指導補助教員2名以上を決定する。
	後半	研究計画の立案及び研究計画の公開発表	研究テーマ・研究計画について、指導・助言する。
2 年次	前半	研究の遂行・修士論文の作成	研究計画に従ってデータ収集・解析等を行い、研究成果のまとめを行う。
	後半	修士論文提出 / 口述試験 / 公聴会	学位論文としての量的・質的妥当性に加え、先行研究やデータ・資料等の分析について総合的に審査する。

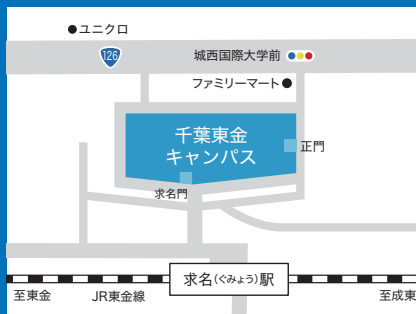
城西国際大学への交通アクセス <https://www.jiu.ac.jp/access/>



千葉東金キャンパス



東京紀尾井町キャンパス



- ▶ JR東金線 求名(ぐみょう)駅から徒歩5分
- ▶ 千葉東金有料道路「東金インターチェンジ」直進、車で約20分
- ▶ シャトルバス運行
JR東京駅、JR横浜駅(アクアライン、JR木更津駅経由)、JR千葉駅、JR蘇我駅、JR東金駅、京成成田駅(JR成東駅経由)より



- ▶ 東京メトロ有楽町線 麹町駅1番出口より徒歩約3分
 - ▶ 東京メトロ半蔵門線 半蔵門駅2番・6番出口より徒歩約3分
 - ▶ 東京メトロ南北線 永田町駅9a番出口より徒歩約5分
 - ▶ 東京メトロ丸ノ内線・銀座線 赤坂見附駅D出口より徒歩約8分
 - ▶ JR中央線・総武線 四ツ谷駅より徒歩約10分
- ※本学駐車場はございません。



城西国際大学
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY

〈千葉東金キャンパス〉

〒283-8555 千葉県東金市求名1番地

Tel: 0475-55-8855

E-mail: admis_c@jiu.ac.jp (入試課)

〈東京紀尾井町キャンパス〉

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-3-20

Tel: 03-6238-1111

E-mail: admis_c@jiu.ac.jp (入試課)